



グローバルスタディーズ学部

発行日 平成28(2016)年3月7日

学部長あいさつ

「2016年度に向けて」

SGS News Letter 第19号をお届けします。

2015年度はSGSにとって変革の一年でした。今後、グローバルスタディーズ学部は以下のような展望にもとづいて変化・発展していくこととなりますので、期待とともに見守っていただければ幸いです。

一つ目は、昨年11月4日(水)に藤沢市、藤沢市観光協会、多摩大学との協定締結の調印式を行いました。これにより2020年の東京オリンピック・パラリンピックはもちろんのこと、その2年前の2018年に実施されるテストマッチ、2019年のプレオリンピックなどにSGS在学学生をガイド、ボランティアスタッフ、(語学力によりますが)通訳として派遣することが正式に決まりました。

この協力体制に関しては、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、東京新聞、神奈川新聞などを始め計8紙に取り上げていただきました。また、調印式当日にNHKの夜のニュースでも放送されました。

二つ目は、12月10日(木)に藤沢商工会館ミナパークにて藤沢市、藤沢市観光協会と本学の観光連携等協力協定締結を記念して「グローバル化する観光産業の人材育成と活用Ⅳ」と題したシンポジウムを開催しました。2014年度に3回開催したシンポジウムを継承する意味で、寺島学長の強い希望もあり、今年度も引き続きの開催です。上述の藤沢市、藤沢市観光協会と本学の提携について堂下准教授が紹介・説明し、さらに公立名桜大学との協力協定締結についての進捗報告がありました。最後に学長の基調講演「新たな視界からの観光戦略～藤沢の役割～」では、藤沢市に対する期待、その役割について話し、SGSと藤沢市、藤沢市観光協会との連携や協力体制を力説しました。

三つ目は、2016年1月5日(火)に沖縄県名護市にあります公立名桜大学との学術交流および連携に関する包括協定を結びました。寺島学長と共に、観光学の堂下准教授および田中専任講師、文化人類学の太田准教授、環境学の橋詰教授および池田事務局長兼教務課長が随行しました(2ページを参照ください)。

今後、名桜大学の観光産業教育研究学系およびスポーツ健康学科などと協力していくことになります。名桜大学にはオリンピック(スポーツ)と観光、ビーチリゾート開発、DESTINATION・マーケティング、都市観光、農村観光などの専門家がいらっしやいますので、その方々に指導していただけることになりSGS生には、素晴らしい交流そして学びの機会になることでしょう。

さらに、本学学生にとっては年に一度沖縄を訪れる可能性が得られ、沖縄を知る、沖縄の観光に関して学ぶ絶好の機会を得ることになります。それだけではなく、インターゼミでも同様のテーマで研究を深めることになるでしょう。本学としては学長が提唱している高度人材育成、観光の産業化などに向き合える人材を育成することを鑑み、改革し続けていきます。

次の新たな展開として1年生海外研修を実施致します。今年度はシンガポールの南洋科技大学へ学生21名、引率教員4名が3月に参加する予定です。この経験を踏まえて、中期・長期の留学に参加する学生が増えることを期待しております。学長が常に述べているように「移動は人を賢くする」、その初歩的なステップとして考えていただければ幸いです。

来年度2016年～2017年は、SGS10周年記念の年です。それを祝して、2016年(7月または9月)に10周年記念行事を開催いたします。このイベントには、マカオ大学、中国文化大学(台北)、名桜大学、文教大学、横浜市立大学、明海大学などの他大学から4～5名の専門家に出席していただき、観光とオリンピック、スポーツと観光、さらには高度観光人材育成および観光の産業化について貴重な話が聴けることも期待しております。



学部長 安田 震一
(ヤスダ シンイチ)
William Shang
(ウィリアム シヤング)



今後のスケジュール

- 3月20日(日・祝)
学位授与式・卒業式
- 3月31日(金)～4月4日(月)
オリエンテーション
- 4月2日(土)
TOEIC試験
- 4月5日(火)
入学式
- 4月6日(水)
春学期 授業開始
- 4月13日(水)～4月19日(火)
春学期 履修科目登録期間
- 4月20日(水)～4月26日(火)
春学期 履修科目確認期間
- 4月29日(金・祝)
昭和の日(授業あり)
- 5月3日(火・祝)
憲法記念日(授業あり)
- 5月6、7日(金、土)
特別研修日
- 5月16日(月)～5月20日(金)
春学期 履修科目中止期間
- 6月4日(土)
TOEIC試験

発行責任者:

学部長 安田 震一

多摩大学

グローバルスタディーズ学部

〒252-0805

神奈川県藤沢市円行802番地

TEL : 0466-82-4141

<http://www.tama.ac.jp/>

多摩大学、藤沢市、藤沢市観光協会と協力協定締結

～「観光人材の育成」と「学生の活躍」に大きな期待～

1月4日(水)多摩大学と藤沢市、藤沢市観光協会が観光連携等協力協定を締結しました。SGSでは、江の島を訪れた外国人へのアンケート調査などを通じて、藤沢市や同市観光協会との連携をこれまで深めてきました。今後は、外国人観光客の誘致強化や観光産業、地域振興のため、人や知的資源の交流を進めていきます。また、2020年の東京五輪では、江の島(藤沢市)一帯でセーリング競技が開催されることから、あわせて外国人観光客の受け入れ態勢を強化することも狙いの一つになります。



左から藤沢市長 鈴木恒夫様、寺島実郎学長、藤沢市観光協会会長 二見幸雄様

藤沢市、藤沢市観光協会、多摩大学との協定締結シンポジウム

12月10日(木)前述の締結した観光連携等協力協定を記念して、藤沢商工会館ミナパークにおいてシンポジウムを開催しました。会場来場者数は、223名と大変盛況でした。藤沢市長を始め、藤沢市役所、藤沢市観光協会等、藤沢の観光・サービスに携わるの方々のご参加がありました。本学の堂下恵准教授からは本協定がオリンピック後まで見据えた連携であることの説明、寺島実郎学長からは藤沢における観光、サービス、グローバル化する観光産業についての講演があり、来場者の方々は熱心に聞き入っていました。



藤沢市長 鈴木恒夫様のご挨拶



寺島実郎学長講演

名桜大学との提携

多摩大学と名桜大学は、1月5日(火)に「学術交流及び連携に関する包括協定書」の調印式を執り行いました。この目的は、両大学の教育・研究活動全般における交流及び連携を推進し、相互の教育・研究の一層の発展と、人材の育成及び地域社会の発展に寄与することです。

調印式には、寺島実郎学長、安田震一グローバルスタディーズ学部長、橋詰博樹教授、堂下恵准教授、太田哲准教授、田中孝枝専任講師、池田事務局部長兼教務課長の計7名が出席いたしました。式次第では、出席者の紹介から始まり、両学長による包括協定書の署名、記念品の交換が行われました。そして、名桜大学の山里勝己学長より、同大学の概要について説明がなされ、本学との包括協定について祝辞を述べられました。次に、寺島実郎学長より、包括協定に至る経緯について説明がなされ、「グローバルティ」、「多摩学」、「三浦按針」、「バジル・ホール」、「歴史ツーリズム」といったキーワードをもとに、ハイエンドなリピーターを惹きつける観光には、強い「物語」が必要であるとの講話がなされました。その後、参加者による集合写真の撮影を行い、調印式は成功裏に終了いたしました。

この締結により、本学の学生は、国内留学として名桜大学で学ぶことができ(最長1年)、一定の評価基準をクリアすれば、本学の単位として認められます。詳細については、4月以降に説明会を実施いたします。興味のある学生は、ぜひご参加ください。



公立大学法人 名桜大学

〒905-8585 沖縄県名護市字又1220-1

名桜大学は、1994年に北部12市町村と沖縄県からの出資によって公設民営の大学として設立され、2010年には公立大学法人名桜大学となりました。名桜大学の建学の理念は「平和・自由・進歩」であり、国際教養人の育成を大学の使命・目的として掲げています。

藤沢市歌斉唱

湘南台地区賀詞交換会

1月9日(土)に藤沢市湘南台地区の賀詞交換会が湘南台市民センターで開催されました。藤沢市長も参加して行われた会に、本学学生の日頃の地域貢献活動が評価され、学生6名が招待を受けました。オープニングの藤沢市歌斉唱で本学学生にぜひ歌ってほしいとの打診を12月にいただきました。本番まで時間がないこともあり、学生は依頼を断ると思っていましたが、「是非、歌ってみたい」との声があがり、急遽練習を開始しました。当日は、緊張感から練習ほどの声は出ていなかったのが残念ですが、地域の皆さまから盛大な拍手をいただくとともに藤沢市長からもお褒めの言葉をいただきました。学生は日頃の活動が認められたことと、大舞台での歌声披露に充実感を感じていたようです。



中学校教職課程 平成27年11月24日付の文部科学省の通知により、グローバルスタディーズ学部グローバルスタディーズ学科において申請中であつた教職課程について、以下のとおり認定されました。

・**中学校教諭1種免許状(英語)**：指定科目の単位を修得することにより、左記の教育職員免許状を取得することができます。

これにより、グローバルスタディーズ学部では、中学校及び高等学校教諭1種免許状(英語)を同時に取得可能となりました。

また、「教職支援室」を開設し、採用試験に関する書籍を揃え、教職免許取得を希望する学生をバックアップしていきます。

学園祭（第9回 SGS Festa）

1月7日（土）・8日（日）、学園祭「第9回SGS Festa」を開催することができました。2日目は生憎の雨のため来場者数が伸びなやみましたが、初日は900名と、1日の来場者数としては最高となる数のお客様をお迎えすることができ、学園祭実行委員会一同喜びにあふれました。

今回のテーマは「Colors～十人十色のおもてなし～」。本学部の特長である「ホスピタリティ」を伝えるため、学生がアイデアを出しあい、お客様をもてなす工夫が随所に見られました。今年も盛りだくさんの企画だったためすべてを掲載することはできませんが、いくつかのイベントをご紹介します。

安田学部長がアメリカンスクールで一緒だった早見優さんとのトークショーはE301教室がほぼ埋まるほどの人気で、今年一番の盛況でした。昨年から取り組み始めた折鶴アートは2年越しで完成し、体育館ステージ裏に飾りつけたところ、「鶴の世界地図すばらしい」の声。キャンパス外イベントとして実施したEco多摩サークル主催「スポーツGOMI拾い」は、藤沢市役所様から3チームが出場し、外部を巻き込んだイベントとして成功を収めました。アゴラでは、職員手作りのお菓子とともに留学プログラムを紹介する“Study Abroad Café”を開催。留学経験学生からの報告会を同時開催し、彼らの経験談を来場者の方と在学生在が興味深く聞いていました。中庭では、1年生の各クラスが世界各国の料理を提供したほか、SGS後援会様による「焼きそば」を出店し好評を博しました。今年初めての試みとして、日本大学様からもダンスサークルや落語研究会の有志に参加してもらい、熱いパフォーマンスを披露してくれたことは、両大学の交流を深めるのに役立ったと思います。

在学生がこの学園祭でトライし学んだことを糧に、数年後のオリンピックで本当の意味でのグローバルな「おもてなし」ができるようになることを期待しています。



早見優さん・安田学部長のトークショー



2万羽の折鶴による世界地図



大学付近で行われた「スポーツGOMI拾い」

平成28(2016)年度学生会執行部

学生会は会員(在学生全員が会員)の総意に基づいて、組織内に所属する各種団体、サークルの活動を通じて、学生がより良い学園生活、学生活動を送れるようにするとともに、本学の発展、および地域に貢献することを目的としています。

学生会では、1月に平成28(2016)年度学生会会長選挙を実施し、2年生の八重樫弥生さんが選出され、以下の学生会執行部役員が任命されました。新体制のもと、学生会の活動(学内イベント、学園祭、サークル、地域貢献)に参加し、リーダーシップ力を養い、協調性を身につけるなど、全学生が積極的に取り組むことを期待しています。

会長	八重樫 弥生（2年）
副会長	田村 里佳子（1年）、矢作 真志（1年）
書記	伊藤 竜二（2年）
会計	岡田 真耶（2年）、小野寺 武仁（2年）
サークル連合代表	栗山 充（2年） バドミントン「Shonan Winds」
学園祭実行委員長	園原 真由子（2年）

国際交流センター

留学生茶道体験

1月12日（火）午後6時から、2月に帰国した交換留学生が茶道体験をしました。当日は約30名及び学生が参加し、日本の伝統文化について学びました。



交換留学生送別会

1月14日（木）午後5時半から、2月に帰国した交換留学生の送別会をカフェテリアで行いました。約60名の教職員及び学生が参加し、交換留学生には修了証書を授与しました。

シンガポール研修

3月5日（土）から3月12日（土）までの日程で、シンガポール研修に21名の学生が参加します。協定校であるナンヤンポリテクニクの学生寮に宿泊し、観光学及びホスピタリティについて講義を受けるほか、シンガポールのホテル等でのフィールドワーク等も行います。

韓国済州島研修

5月25日（水）～5月28日（土）まで実施する韓国済州島研修の参加者を募集しています。4回目となるこの研修では、著名人が多く参加する済州島フォーラムに参加します。今回は旧ソ連ゴルパチョフ書記長の講演があります。ゴルパチョフ書記長以外にも、著名人の講演やパネルディスカッションを予定しています。また、この研修には多摩キャンパスからも多くの学生が参加します。日頃聞く機会のない著名人の講演を聞いたり、ちょっと豪華なホテル体験をしたり、多摩キャンパスの学生と交流したい学生にはお勧めです。少しでも興味がある学生は、4月に説明会を実施しますので是非参加して下さい。資料及び申込用紙は、事務局で配布しています。

キャリア支援課

2016年2月13日現在（重複内定含む）

<4年生進路状況>

本学部4年生（6期生）の2月13日現在の内定率は、約87%です。昨年の約80%（同時期比）と比べると、約7ポイント内定率が向上しています。この背景には、企業側が持つ、明るい景気先行き観が見て取れます。一方で、学生の内定辞退による追加求人が存在しており、現在も就職活動を継続している学生に対しては、卒業を控えたこの時期においてもまだまだ内定獲得の可能性が高いのも事実です。キャリア支援課ではこの状況を踏まえ、これまで以上に個別相談を行い、まだまだ採用意欲の強い企業への求人を紹介しています。右記は、本学部学生の内定実績一覧です。

<エアライン講座>

平成27年度秋学期から新しい講座として「エアライン講座」を開講しました。今年度同様、平成28年度も開講予定です。この講座の対象は3年生で、卒業後にCAやGSを目指す、或いは興味を持つ人のための講座です。外部のエアラインスクール講師（CA含む）を招き、書類対策、メイク対策、GD/GW対策、外資系エアライン対策、立ち居振る舞い対策、羽田空港見学などの構成で、全13回の講座を実施しました。今年度の参加人数は16名でした。下記の写真は、その講座と羽田空港見学の際の一コマです。



主な内定先		
製造業	大洋印刷(株)、(株)資生堂、(株)タカシマ、アリアケジャパン(株)、ストラバック(株)、(株)多摩川電子	
情報通信業	楽天(株)、(株)プライツコンサルティング、ディップ(株)、(株)ワークスアプリケーションズ、(株)ケーウェイズ、日本コンピュータ・ダイナミクス(株)、(株)大和システムクリエイト、(株)アーバン・コーポレーション、東京コンピュータサービス(株)、(株)アドックインターナショナル	
運輸業、郵便業	日本郵政(株)、(株)JALスカイ、ANAエアポートサービス(株)、(株)エコ配、国際自動車(株)	
卸売業、小売業	As-meエステール(株)、クラランス(株)、(株)ポーネランド、(株)オン・ザ・プランネット、(株)INE、(株)トレジャー・ファクトリー、(株)大塚商会、トップ産業(株)、(株)カクヤス、(株)饅田、サミット(株)、(株)そごう・西武、東和電気(株)、大喜産業(株)、(株)ガリバーインターナショナル、神奈川スリル(株)、(株)ノジマ、月星商事(株)、(株)和光ケミカル、(株)フォーナインズ、(株)かねまつ、カネボウ化粧品販売(株)、(株)ヌーヴ・エイ、(株)イービーシー・マート、(株)ピーアンドエム、田中興産(株)絵里奈事業部、はるやま商事(株)、青山商事(株)、(株)ジオン商事、(株)リパークレイン	
金融・保険業	かながわ信用金庫、(株)クレディセゾン、(株)トイカード、第一生命保険(株)	
不動産業、建設業	(株)東急コミュニティー、東電用地(株)、(株)シティーータルプラン、(株)共立メンテナンス、新生ホームサービス(株)	
飲食店、宿泊業	アパホテル(株)、(株)小田急リゾート、(株)丸の内ホテル、京王プラザホテル(株)、シャングリ・ラ東京、東急ステイサービス(株)、ヒルトン東京お台、(株)クリエイト・レストランツ・ホールディングス	
医療、福祉	社会福祉法人神奈川県社会福祉事業団、社会福祉法人合掌苑、(株)ケア21	
教育、学習支援業	チモロ(株)、(株)ティルウィンド	
サービス業	生活関連サービス業	(株)リネサンス、(株)てるみるくらぶ、(株)遠藤波津子美容室、テルウェル東日本(株)、(株)ケンジ
	サービス業(他に分類されないもの)	一般社団法人隠岐の島観光協会

多摩キャンパス異動

良峯 徳和 先生 Norikazu Yoshimine



ヒト - 感動して涙する不思議な動物

今年度から張先生と一緒に始めたトライアルゼミでは、感激や感動して、心が大きく揺れ動いたときの状態を、脳波で測定しようという試みを行ってきました。感動や感激といった心の出来事は、誰もが幾度も体験し、それぞれのその後の生き方に対して大きな影響力のある重要な契機だということはよく理解されているのですが、その実、その心理的、生理学的なメカニズムについては、まだほとんど分かっていないのが現状です。こうした心の出来事について、脳波の分析を通じて明らかにしていこうというのが、このゼミの目標です。私自身は4月から経営情報学部にも異動になりますが、湘南キャンパスの張先生のゼミと協力（コラボ）しながら、経営情報学部のゼミ生たちとこの活動を継続していく予定です。

日本語の「感動」にぴったり対応する英語の言葉は、比喩を使ってbeing-moved、being-touchedなどと表現する以外、見つからないと主張する研究者もいますが、世界中の人々が「感動」と呼ぶにふさわしい経験をしていることは確かです。さもなくば、私たちに感動を与えてくれるような文学作品や映画、音楽、アニメーションなどが、世界中に溢ればかりに創作され、愉しまれているといった現実の説明はできません。ちなみに心理学者や動物学者のほぼ一致した見解によると、イヌやネコ、サルも含めて、出来事に感動して涙まで流す動物は、人間（ヒト）だけと言われています。

赤ん坊の頃は、誰でも人目をはばからず、悲しいとき、つらいとき、我慢がならないときには大声で泣き叫びますが、だんだんと大人になっていくにつれ、人前で泣いたり涙を流すことは、恥ずかしい、大人げない、女々しいと思うようになり、人前で涙することを抑え込もうとします。しかしながら、涙を抑え込むのは実は健康的なことではない、涙はストレスや心の傷を癒してくれる効用を持つということを示す生理実験が行われました。今から約30年前、ウィリアム・フレイという生理学者が玉ねぎの刺激によって流された涙と感動ものの映画を見て流された涙の成分を比較したところ、映画に感動して流された涙にはストレスに敏感に反応して分泌される副腎皮質ホルモンやうつ状態を和らげるプロラクチンというホルモンがより多く含まれるということが分かりました。（残念ながら、フレイが行った涙の効用に関する研究成果は、現在でも十分に検証されておらず、まだ仮説の域を出ていないともいわれています。）

とはいえ、映画やコンサートで感動の涙を流したあと、妙にすっきりと晴れ晴れした気分になるのは、感動の涙の持つ特別な働きによるものだと、日本では最近、感動ものの映画や音楽を聴いて皆で涙するという「涙活」と呼ばれるイベントが開催されているそうです。まさしく「みんなで涙を流せば、恥ずかしくない（それどころか、健康になれる）」といったところですが、しかしながら、よくよく考えてみると、その際に本当に大切なことは涙を流すという生理的な現象の方ではなく、感動に値する立派な作品に出会え、その作品に全身全霊で対峙できるほどまでに自分が成長したという確証が得られることの方ではないでしょうか。人間という不思議な動物が流す感動の涙とは、それまでの自分を超越したもう一人の自分に出会えたという喜びの感情なのかもしれません。